

わし 鷺のタマゴ

5 むかしむかし、ある村に年をとった百姓がいて、美しい一人の娘をもっていました。田植えの頃に苗代を見まわっていると、蛇が小さな蛙を追いかけて、苗代を荒していました。

10 「蛇よ、もうやめろ。おれの娘をお前にあげるから」と百姓は言いました。すると、蛇は追うのを止めておとなしく帰って行きました。そうしてその晩から、立派な若い男が娘のところへ、夜遅く来て朝早く帰るようになりました。

それがどういふ人かよく分らないので、お爺さんは気にかけていましたが、ある日家の前を一人の見たことのない易者が通って行くので、その人を呼んで、占いをしてもらいました。

15 その易者は、「この娘はただの人間でない者を婿に取って、人間でない者の子を持っているから、近いうちに死ぬかも知れない。けれども助かる方法がみつがある。裏の山の太木の

上に、鷺が巣を作って今卵をみつ産んでいる。あれを婿に頼んで取ってきてもらって、娘に食べさせてみたらいいだろう」と言いました。そこでその晩に来た婿に鷺の卵が食べた

20 いという話をしますと、快く承知をして取りに行ってくれ

田植え=Pflanzung von Reis; 苗代=Reispflänzchen

5

10

気にかける=besorgt sein

見たことのない=noch nie gesehen, fremd; 易者=Weissager

占い=Wahrsagerei

婿に取る=jmdn. zum Bräutigam nehmen

15

近いうちに=im kürzen

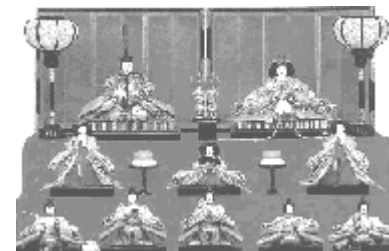
20

5 ましたが、その時はちゃんと蛇の姿をしていたそうでありま
す。そうしてふたつの卵を口にくわえて来て、みつつ目を取
りに行ったときに、驚の親はその蛇をつついて殺してしま
ました。お爺さんが家に帰ると、昨日の易者がまた来ていて、
5 この話を聞いて、「それではもう娘さんは助かった。これ
からは三月三日に、酒の中へ桃の花を入れて飲ませなさい。
そうすればますます元気になります。私はあなたに命を助
けられた、小さな蛙なのです。」と言って、ぴよんぴよんと
どこかへ飛んで行きました。それから、三月の三日には人が桃
10 の酒を飲むようになったのです。

15

20

5 三月三日=der 3. März¹



Hina-Ningyo

¹ Der 3. März ist ein spezieller Tag in Japan. Der Tag ist bekannt als Tag der Mädchen bzw. Tag der Pfirsiche. An dem Tag wird die Wohnung, in der kleine Mädchen wohnen, mit einem traditionellen Puppen-Altar (*Hina-Ningyo*) geschmückt, der eine Hochzeit der Adligen im Mittelalter darstellt. Pfirsich-Likör wird getrunken und gesundes Aufwachsen und Erwachsenwerden der Mädchen werden gewünscht.